

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:微生物病研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		高度副プログラムについて、他部局への周知活動の展開や英語シラバスの強化を行い、留学生を中心に受講生が9名から22名に増加したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		教員が文部科学大臣表彰などを受賞していること、AMED感染症研究国際展開戦略プログラム(J-GRID)において、多くの論文を発表していること及び平成30年度に実施された共同利用・共同研究拠点の中間評価結果がSであったこと(医学・生物学系のS評価は2機関のみ)が評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		地域の市民との交流を深めるべく、近隣地域公民館との共催講演会(54名参加)や、大阪大学・三井不動産との協定を活用したEXPOCITYでのイベント(大阪大学共創DAY出展、ガラスショーケース展示1ヶ月間、はんだいらボ粹でのイベント2回)を行っていること、高校対象企画として、高校生対象サマースクール(45名参加)を開催していること及び平成30年度からの新規企画として高校教員対象講演会(64名参加)を実施していることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		微研独自の奨学金制度である谷口海外奨学生として2名の留学生を受入れており、平成30年度からの新規企画としてインドネシアアイルラング大学から4名の研修生を1ヶ月間受入れていること、国際的な高大接続の取り組みとしてタイ王国スワンクラブ高校から生徒10名を1週間受け入れていること及び邦人医師を対象としたタイ・ミャンマー国境における現地で学ぶ熱帯感染症医師研修(14名参加)を実施していることが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		奨学寄附金について、若手研究者の研究助成金の獲得により44件、210,723千円で平成29年度の35件178,042千円から大幅に増加していること及び研究者対象のコンテンツが多かった微研公式ウェブサイトを一般向けページの公開などして広報活動を活発に行っていることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人あたりの論文数について、実績は低下しているものの、英語ネイティブ講師によるライティング研修を所内で開催するなど、実績向上の取組が認められる。 常勤教員公募に占める国際公募の割合について、前年度から向上させるとともに高い水準を維持していることが評価できる。</p>
--